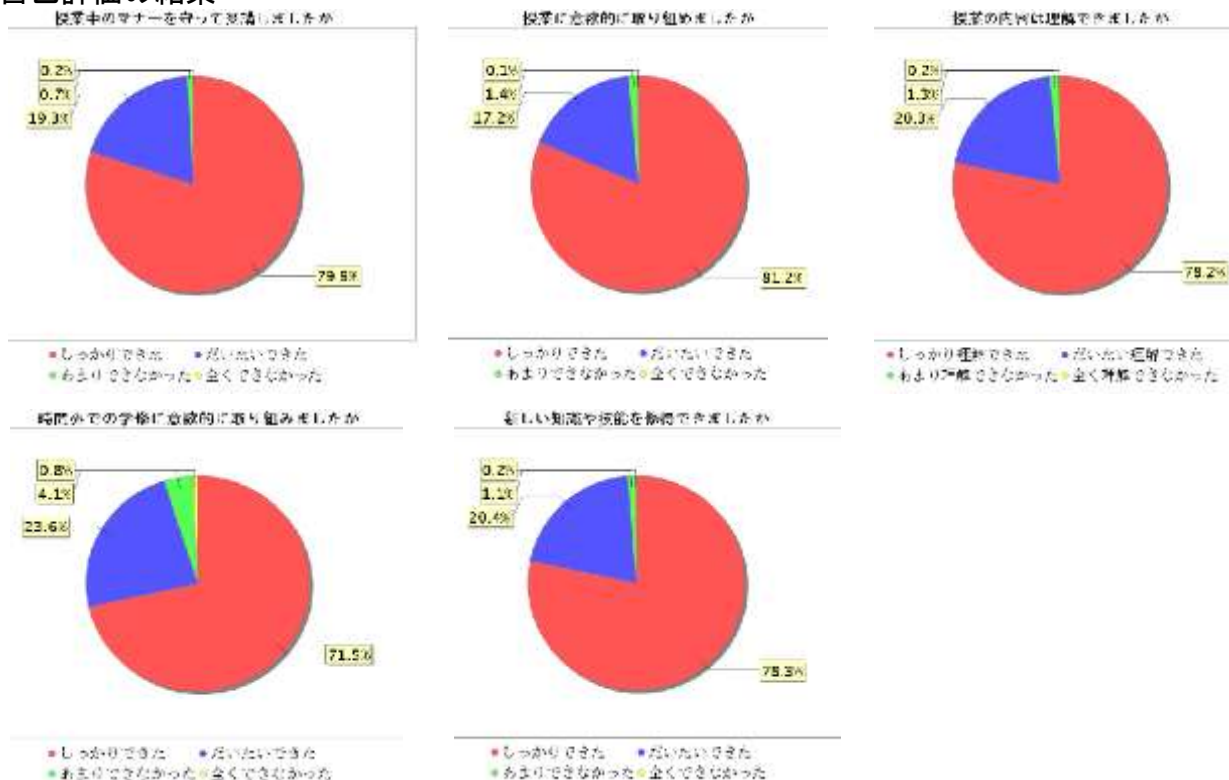


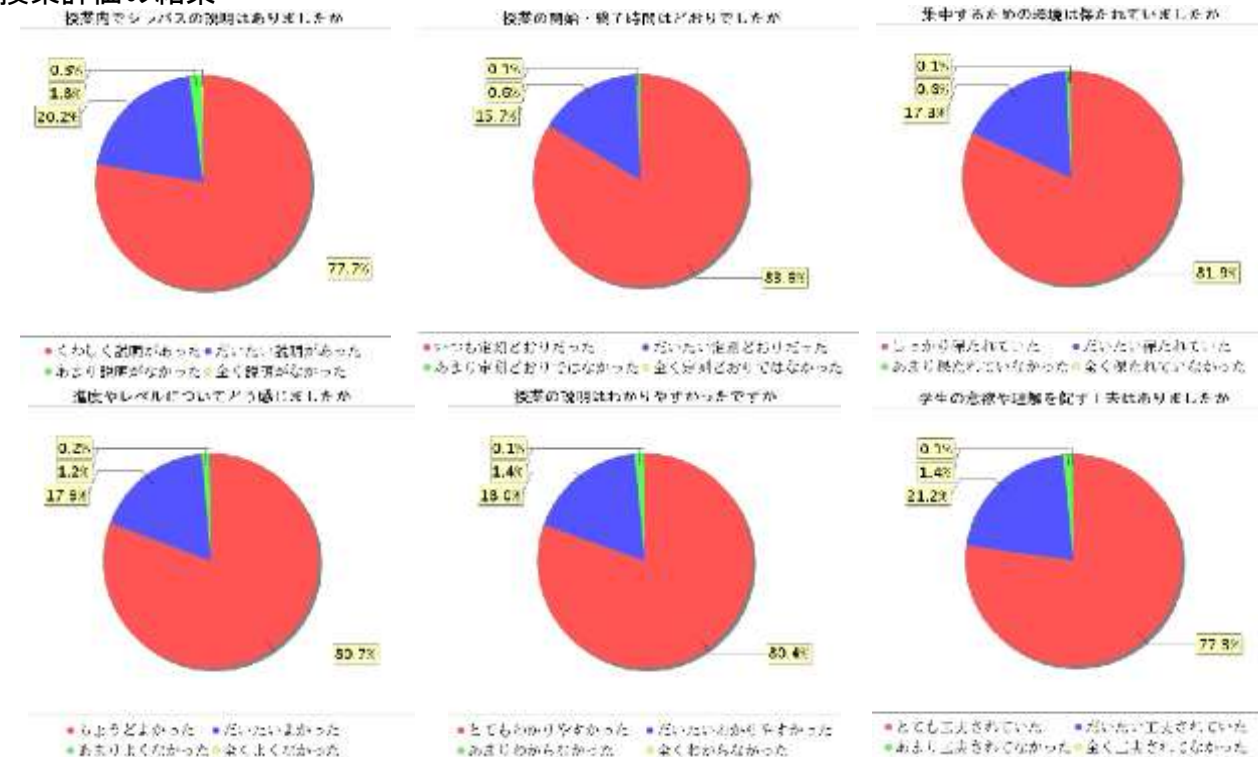
後期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和6年度後期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 自己評価の結果



□ 授業評価の結果



〈今回の結果からわかること〉

1. 授業評価の実施について

今年度後期の授業評価を実施しました。

- 講義系・実習系の授業を区別せず、全科目同様の質問項目での実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「授業内容の理解」「時間外での学修に対する意欲」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると95%を超えているなど肯定的な評価がほとんどでした。これは、多くの学生が前向きで真面目に学生生活（授業）に取り組んでいることの証であると言えます。

しかし、より一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当てて分析すると、「授業に対する意欲」については80%を超えていますが、「授業中のマナー」は79.9%、「授業内容の理解」は78.2%、「新しい知識や技能の修得」は78.3%と「授業に対する意欲」に関する質問と比較すると若干低い結果となっています。

特に「時間外での学修への取組」については71.5%と他の質問には見られない低い結果となっているだけでなく、「あまりできなかった」が4.1%、「全くできなかった」が0.8%となっていることから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、「時間外での学修への取組」の改善が課題であると考えられます。さらに充実した学生生活（授業）の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための継続的な授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が97%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。さらに、自己評価の分析と同様に、質問に対する最も高い評価の結果だけに着目し、前期の結果と比較すると、「シラバスの説明」は76.9→77.7%、「授業の開始・終了時刻」は82.6%→83.6%、「集中するための環境」は82.8%→81.9%、「進度やレベル」は77.6%→80.7%、「説明のわかりやすさ」は76.4%→80.4%、「意欲や理解を促す工夫」については75.2%→77.3%と、「集中するための環境」以外の項目では、いずれも評価が向上したことは授業改善の成果であると考えられます。今後は、70%代にとどまっている「シラバスの説明」と「意欲や理解を促す工夫」に特に留意して授業改善を進めることで、学生の満足度がさらに向上することが期待できます。

後期授業評価『教員から学生の皆さんへ』

令和6年度後期の学生による授業評価に対して、教員から学生のみなさんへの回答をまとめました。

専門科目◆ 科目名（学科名の略 学年）

【幼児教育学科】

◆ 保育教材研究（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

シラバス記載に沿った授業展開を行っていくと同時に、学生のみなさんが見通しを持って学修を進められるように努めました。また一人一人の進度に合わせた声掛けをし、質問しやすい雰囲気作りを心掛けました。学生のみなさんからの質問や相談が増えた気がします。

2. 授業評価の結果に対するコメント

オリジナル作品を制作する授業です。個々に課題に取り組み、授業外での学修が多いため、後半には進度や完成度の差がかなり出てきます。中盤に進捗状況を把握し、適切な声掛けや指導をするべきだったと反省しています。また、授業内での制作活動がより有効的に進められるような環境作りができればよかったと思います。今後、気を付けていきたいです。

3. 今後の授業における目標

受講者の全員が「この授業を受講してよかった」と心から思えるような授業作りができればと思います。全体での講義内容と個々への指導を受講者に合わせつつもしっかりと伝えていきたいです。そのためには授業の雰囲気作りも大切であり、学生とコミュニケーションを取りながら意見も取り入れて進めていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

授業は受講者と教員が創り上げていきます。みなさんからの意見の聞き、授業改善に反映させていきたいため、アンケートへの協力をお願いします。また、学年が上がるにつれ、「教えてもらう」「解答をもらう」から「自ら学ぶ」「自分で考えて答えを出す」姿勢で授業に望んでほしいと思います。

◆ 教育相談（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価で授業環境の整備についての評価が低かったため、授業中の私語への注意をしっかりと行い、座席指定なども適宜行った。その結果、静かな環境で集中出来たというコメントが得られた。

グループワークについても賛否両方の意見があったため、取り組む内容に応じてランダムに割り当てたメンバーで行ったり、学生同士が話しやすいメンバーで行ったり、と工夫した。学生のコメントからはそれぞれのグループの良さを生かした体験が出来たことが窺えた。また、実際の取り組みの様子からも、意図した学修成果に繋がっていたことが実感できた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価の目的を何度も説明し、入力時間を確保したが回答率が低かった。入力時間を授業後のコメントを書く時間と併せて設定したことが原因だと思われるため、次回からは授業の冒頭で授業評価への回答を指示しその場で入力させることとする。評価の内容を見ると学生自身の取り組みへの評価も授業の取り組みへの評価も概ね良く、学生がこの授業にしっかり取り組んでいたことがわかる。しかしながら、全体の評価項目の中では進度レベルに関する評価の低さが気になるため、学生の理解度を把握しながら授業を進められていたかを反省し改善したい。

3. 今後の授業における目標

毎回の授業時、自分が教えたい内容や学生に取り組んで欲しいことを中心に授業を組み立てた後に、学生側からの視点で改めて授業内容全体を見直してみる。90 分の授業を受ける上での集中力の持続や情報処理能力、心理的安全性などの観点で見直すことで、学生にとって適切な進捗でストレスの少ない授業を行えるよう考慮する。

4. 受講学生に対する要望

講義を聞いて知識や技能を修得するだけでなく、自分自身のことを振り返って考えたり他学生の意見を聞いたりして自他理解が深められると学びが深まります。そのためには、(心理的に少ししんどい時もあると思いますが) 自分の内面に向き合い、自己開示を意識して他者と交流するよう努力してみてください。

◆ 保育内容「環境」の指導法 (幼2)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

演習の授業において、保育者の立場、子どもの立場での取り組みから明確な課題を示し、学修や活動に取り組めるようにしました。多くの受講学生は、子どもの気持ちになって取り組み、積極的に活動に参加する姿が見られました。取り組む活動時間が長くなったため、発表し合う機会が少なくなりました。自分自身の学びと他学生のよさに気付くことができる発表とのバランスを考えていきたいと思っています。

2. 授業評価の結果に対するコメント

受講学生の自由記述からは、「体験的な学修から子どもの気持ち、更に保育者としての考え方や展開を実践的に学び、知識がついた」という意見など実際に体験しながら環境や遊びについて学べたという意見がありました。しかし、自己の取組に対する評価、授業の取り組みに対する評価共に、前期の幼児と環境の評価より下がっていたため意欲的に取り組める演習と領域「環境」の関連や捉え方を学修できるよう、授業の内容を振り返り、改善策を考えていきたいと思っています。

3. 今後の授業における目標

受講学生が自然や遊びなどの体験学修を楽しみ、学修内容を理解すると同時に、保育者としての知識や技術を今後の実習や研修、仕事にいかせるような学修ができるよう、授業内で体験したことや、時間外学修において制作、まとめたことを発表し合う機会を効果的に行えるようにしていきます。

4. 受講学生に対する要望

子どもたちにとって人的環境である保育者の影響力は、とても大きいものです。保育者が楽しく、意欲的に生活したり遊んだりすることが大切です。そのために様々な物や出来事に興味関心をもち、共感力をもってグループワークに取り組む姿勢も大切にした学修態度を意識してほしいと思っています。

◆ 幼児と健康 (幼1)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業後の時間外課題で提出のあったレポートから、学生の学びや考えの波及を目的に、次の授業内で紹介するようにしたことで、学生が自身の学びや考えを深める様子が見られた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生の自己の取組に対する評価では、マナー、意欲、時間外学修の観点において、学科平均より 0.1 ポイント低く、授業の取組に対する評価では、全学平均、学科平均よりも全体が低い評価であった。この授業では、運動遊びや健康や安全行動を、実践的に学ぶことを目的としたが、十分に伝えきれなかったと反省している。毎回の授業での目標提示、意欲を高める導入に展開、主活動の展開の工夫が

不十分だったといえる。また、将来の保育技術に活用できるこども体操等を習得するために時間外課題を活用するなどの工夫も必要であった。

3. 今後の授業における目標

生きる力として「健康」は重要な要素であることを、演習を通して実感できる授業の展開に工夫していきたい。これまでも、遊びの体験や、安全のための実習などを多く取り入れてきたが、あわせて学生同士で考え創作する要素を引き出す授業づくりを目指したい。例えばこれまでは、こどもの発育発達を促す遊びを理解し、実際に実践する学習展開であったが、そこに、自らの育ちや経験に基づき学生同士で意見交流をしたり、遊び方の工夫を考えたりする主体的な学びとなるように努めたい。

4. 受講学生に対する要望

担当教員としては、毎回の授業に真摯に向き合い意欲的に授業に取り組んでいたと評価しています。故に、授業に対するもの足りなさがあったのかもしれません。健康や運動遊びに関連する授業は、次の学年でも履修するので、主体的で深い学びになるよう努めますので、将来の職業に直接役立つ知識や技術を高めていきましょう。

◆ 教職論（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

できる限り内容に偏りがでないよう心掛けた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

15講の前半で学んだことを自分の保育園を考えるという活動で応用させたことが、学生にとってよい効果があったと感じる。

3. 今後の授業における目標

講義形式の知識注入型になってしまいがちな教職の歴史に関する内容も、より学生が自ら考えて学べるような学習環境を模索していく。

4. 受講学生に対する要望

引き続き、前向きに講義へ参加してください。。

◆ 幼児と造形表現1（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

制作時間が欲しいと言う意見が多かったため、制作する時間を増やしより集中できるよう、課題内容などプリントを使い簡潔に説明をしました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

後期の授業では、実習に向けた制作を行う中、子どもたちにどんな作品を見せるかななどをイメージしながら、全員がオリジナリティー溢れる作品を作りきったと思います。グループワークも1つの課題に向かって協力しようとする姿勢が随所で見られました。今後も集中できるような環境を整えていきます。

3. 今後の授業における目標

個人個人がさらに自分の表現を追求できるような課題の設定や説明の仕方についてブラッシュアップしたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

作る楽しさを実感しつつ、子どもたちに見せることや、子どもたちの表現を引き出すことについて、今後、一緒に考えていきましょう！

◆ 保育内容「人間関係」の指導法（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

体験的な学修を重視し、実際の保育事例を基にした授業の展開や、模擬的に保育や遊びを体験することでより具体的に学べるよう工夫しました。その結果、学生のコメントから実習場面で活用したいという声や、過去の保育体験での悩みの解消につながったなどの声が挙げられました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価では、全体的に高い評価をいただき、大変嬉しく思います。特に「説明」や「授業環境」において高評価を得たことから、受講生が内容を理解しやすく、学びやすい環境を提供できたことがうかがえます。自由記述の中でも、実体験を交えた説明が分かりやすかったとの意見が多く、具体的な事例を用いることで、学生が保育現場をよりリアルにイメージできたことが評価につながったと考えられます。

3. 今後の授業における目標

今後の授業では、学生がより主体的に学び、考えを深められるような工夫をしていきたいと考えています。今回の授業では、実体験を交えた説明が好評でしたので、今後も具体的な事例を取り入れつつ、さらに学生同士の意見交換の場を増やし、より実践的な学びへとつなげていきたいです。また、受講生の中には実習に対する不安を抱えている学生もいることが分かりました。今後は、授業の中で実習に向けた具体的なアドバイスを提供し、より安心して実習に臨めるよう支援していきます。さらに、資料の見やすさや書き込みスペースの確保など、学修環境の向上にも取り組んでいきます。

4. 受講学生に対する要望

今回の授業を通して、皆さんが人間関係の築き方や子どもとの関わりについて深く学び、それを実習や今後の活動に活かそうとしていることを大変嬉しく思います。保育の現場では、知識だけでなく、実際の経験や試行錯誤が大切になりますので、ぜひ学んだことを積極的に実践し、自分なりの方法を見つけてください。また、授業の中で得た疑問や気づきがあれば、ぜひ遠慮なく質問し、積極的に学びを深めていってほしいと思います。実習や現場での経験を通じて、新たな発見があれば、ぜひ共有してください。今後も、皆さんがより充実した学びを得られるよう、授業の改善を続けていきます。

◆ 乳児保育Ⅱ（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

後期は、1年生にとっては、初めての実習に向けて、また、来年度の子育てサロン「ぷっぷあ」の参加に対する不安がみられる時期であるため、授業内容や配布プリント等を見直すなど、授業準備を入念に行った。さらに毎回、授業後には、学生が記入した振り返りシートの内容を確認し、学生一人ひとりの学習状況等を把握しながら個別対応したり、次の授業でフォローしたりするなど、できる限りの工夫や改善を行った。そうすることで、学生の学習や実習の準備に対する意欲が低下することなく、積極的な授業参加がみられた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

私は、保育者としての経験を踏まえて、皆さんにとって実習や将来、保育現場で役立つような講義内容・プリントの作成を意識して、入念に授業の準備をしてきました。皆さんから「わたしたちのことをすごく考えられていて自分たちのためになるすごくいい授業で楽しかったです!」「来年も先生からたくさん学んで先生にたくさんたきこまれた保育者になりたいです!」「先生が詳しく話してくださったり、実際にあった話を言ってくださったりしたのでとても分かりやすかった。」等のコメントをいただき、教員として大変嬉しく、幸せに思います。

3. 今後の授業における目標

現在、皆さんとの授業を振り返りながら、保育者を目指す学生にとって理解しやすい「乳児保育」の教科書の作成（分担執筆）に携わっています。今後も、公認心理師と臨床発達心理士の資格をいか

して、保育者の心のケアや乳児の発達に悩む保護者に、今よりさらに専門的にかかわりながらサポートできるよう、学び続けていきたいと思っています。

4. 受講学生に対する要望

皆さんが、課題の提出期限を守ったり、学生同士で学び合ったり、積極的に授業や学修に取り組む姿は、とても嬉しく思います。今の努力は、いつかきっと必ず大きな力になるということを信じて、「保育者になる」というすばらしい夢を叶えるために、これからの2年間で精一杯頑張ってもらいたいと心から願っています。最後に、お決まりのフレーズでエールを送ります。「授業では『保育所保育指針・付せん・マーカー』の3セットを忘れずに！これからも頑張ってください！！

【デザイン美術学科】

◆ デザイン論（デビジネスモデル論（デ1）共創デザインⅡ（デ2）1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

産学連携プロジェクト（大垣市：渡辺酒造醸との連携）を取り入れることを行った。一般的な課題よりも学生たちのモチベーションが格段に向上した（共創デザインⅡ）。また専門（デザイン美術）とは直接には関係ない一般企業と学生との繋がりや創出を目的に、様々な業種・業態そして、職種の方々に、様々な機会を創出・利用して、学生との接触を実現させた（ビジネスモデル論／特にパンフレットの取材機会を利用し取材ディレクタに講義を寄付してもらうことを実施）。そのことは、学生たちが、日常的に目にしている物産（印刷物等）の制作工程作業の中に、自身が参加している効果を得たものと考えられる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

概ね想定通りの結果と考える。ビジネスモデル論においては、とくに評価が高かったと考える。

3. 今後の授業における目標

学生の学びを促進する仕組みを構築し、特に以下の点の充実を図る。

1. フィードバックの充実：定性作品に対する定量的評価の導入。
2. ポートフォリオ制作の強化：就職・進学を見据えた作品集の作成指導。
3. 個別指導の充実：学生の得意分野を伸ばすメンタリングやチュートリアルを提供。

授業方法の多様化を図り、特に以下の点の充実に努力したい。

1. アクティブラーニングのさらなる充実。ワークショップ形式の授業をさらに増やす。
2. 国際交流の促進に努力する：海外大学との共同プロジェクト等を試みたい。

4. 受講学生に対する要望

教員から本学科学生に対しては、以下等の向上促進、充実に要望したい。

1. 主体性と探究心：自ら課題を見つけ、積極的に学ぶ姿勢。
2. 創造性と独自性の追求：他者の模倣ではなく、自分の視点や表現を磨くこと。
3. 技術の向上と基礎の重視：デッサン、色彩理論、デジタルツールなど、基礎力養成。
4. 批評を受け入れる姿勢：指導や講評を素直に受け止め、作品の改善につなげる意気込み。
5. 社会とのつながりを意識する：美術・デザインが社会に与える影響を考察する力。
6. 発表やコミュニケーションの力を養う：作品の意図や背景を言葉で説明できる力。
7. 継続的な努力と時間管理：アイデアやスキルは一朝一夕には身につかないことの理解。
8. 幅広い視野：デザイン美術のみならず、新技術や流行への好奇心を発揮してほしい。

◆ マンガ・イラストⅡ（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回のアンケートから改善を行った後の担当している科目全般について、概ね計画していたことは出来たと感じる。学生らの反応等からも大きく逸脱したとは感じられなかった。やはり前期に基礎となる科目を配置し学生のスキルベースを作る（個人差はあるが）ことが良かったと思われる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業で取り扱う課題に対して試行錯誤はしたものの、改善始めの頃と比較すると大きく学生側に伝わっている感触はあった。提出された課題回答の内容も真意を理解した上での内容になってきている。

3. 今後の授業における目標

以前も書いたが本学は職業訓練学校ではない。2年間とはいえ大学レベルの思考を学ぶ場所であるということを念頭においた授業を継続していきたい。

4. 受講学生に対する要望

今のままで構わないと思う。義務教育レベルのままこの先に進むか、社会で有用とされる人材になるための階段を登るかは本人次第と思われる。

◆ 創作美術：鑑賞とコンセプトワーク（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

個々の進捗に合わせ、課題の到達点を明確化し共有する。これにより明瞭な問題抽出、対策立案、有効な計画を期待した。今年は、グループワーク（以下 GW）による企画や制作が増えたことにより、各チームの課題遂行状況により、個々の作業内容は、変動しやすくなり、個人で制作していた時のようなペースで進められない難しさが顕在化した。このような場面では想定外の計画変更が多くなり、個人で制作していた時に感じた感覚的・感情的な楽しさを実感することは難しくなる。そんな中でも目的を常に意識し、常により良い結果を出せるように試行錯誤する学生がいたことはとても頼もしかった。ナレッジマネジメントが必要となるアート系の GW では、観点の見定めや到達度の数値化などスケールメリットの算出は難しい。そんな中でもマネジメントのフロー構築についてわかりやすく説明して、成長の実感できる教育プログラムを形成したいです。

2. 授業評価の結果に対するコメント

課題遂行の遅れは、グループワークでは計画変更の大きな要因だ。今回、遅れた度合いやその要因、影響力を、「実感」できるか否かに個人差があった。「捉え方」と「その後の行動」にも差が出た。グループでアートイベントに取り組む際、条件の中で最高のパフォーマンスができるよう段取りをし、制作物を完成させ、練習にて改善が必要である。企画・制作・実演の各工程において、効率性、演出性、拡張性などへの配慮がいる。観客が直接目にする制作物や演技の質が大切なことは、比較的伝わりやすい。しかし、その過程において、コミュニケーション能力を上げ、最適な協働環境の構築において、重要となる観点とそれぞれの重要度の認識には、個々に大きなばらつきがあった。ライブ当日、学生全員が全力でパフォーマンスをした。感動した。

協働環境の構築について指導し、学生の『自己の取組に対する評価』を上げたい。

3. 今後の授業における目標

ナレッジマネジメントの工程の可視化をさらに改善し、課題に取り組む必然性を共有し合い、リソースを活かし合うことのすばらしさを伝えたいです。それにより組織力を生かした有益な活動ができることを実感してほしいです。

4. 受講学生に対する要望

美術活動は、自身の感覚・感情を覚醒させ、表現を続けることで、満足感や自信を獲得できる人間行為と言われています。また、デザイン思考を身に付けることにより、情報社会では『価値創出』が

可能となり、必要とされる存在となり得るのです。絵を見ることが好きな才能を持った皆さんには、豊かな可能性を感じています。没入できそうな制作行為を見つけ、とことん取り組んでみてください。きっと行動があなたのやる気を引っ張ってくれます。

◆ CGキャラクター（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

目指すプロダクションの採用期日までに作品が完成する、ペース作りが大切。放課後、教室で作る習慣が、業界をめざす学生同士、励みになる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

【意欲的な学修、能動的に向き合う姿が印象的】

学生コメント例

「制作に集中できた 作品を一人一人しっかり見ていた」

「自分で一からモデルを作り改善点を色々見つけていけたので良かった。」

「モデリングをする上で必要な知識や考え方、就職に関する知識を得ることが出来たこと」

【授業の工夫】

「ステップごと、コツを図解（携帯閲覧可）」受講者全体に、制作の完成度が上がった。

3. 今後の授業における目標

「放課後、春休み」就職に向け、授業時間外の教室制作を、今後も支援していきたい。

4. 受講学生に対する要望

ゲーム、アニメ業界をめざし、絶好のチャンス「放課後・春休み制作」ぜひ、実感してみてください。

【音楽総合学科】

◆ 管楽器・業界研究Ⅰ（音1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

スライドの内容を見直し、見やすくまとめた。また、スライドと同じ資料も授業内で配布し、スライドが見にくい学生へも対応をした結果、資料に書き込みなどもして有効に活用できた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生からのコメントで様々な新しい知識が身に付いたとのコメントがあり概ね評価はよかったと感じる。内容を見直しより分かりやすく、より学生にとって身に付く講義内容にしていきたい。

3. 今後の授業における目標

配布物のカタログも更に使い、言葉だけでなく目でも理解できるような内容にしていきたい。

4. 受講学生に対する要望

手元に資料があるので、もらってよしではなく自身で内容を読み込み、配布したカタログを照らし合わせながら学んだ知識を定着させてほしい。また、自分なりにわかりやすく説明をできるようにし自分の知識にできるよう工夫をしてください。来年度の授業でさらに深い知識を得るためにもカタログ等を読み復習・予習の時間を取り入れてください。

◆ ポピュラー音楽史（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

わかりやすくスライドを見せるために文字の大きさ、色などを見直した。次のスライドに移るまで早すぎて書き写せないという声があったため、進める前に書けたかどうか確認するようにした。その結果、わかりにくい、書き写せなかったという声はなくなったため効果はあったと思われる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

ポピュラー音楽の歴史についての授業であるが、学生にとっては興味深い内容の回とそうでない回があり、学生の興味を引くような働きかけを工夫する必要があると感じている。授業後半の楽曲分析は、個々の受講生の力量の違いもあり、ほぼ教員が手伝い仕上げることもあった。学生自身の力をつけてもらうために時間をかけて演習を行う必要もあると感じた。

3. 今後の授業における目標

毎回の授業を興味深く聞いてもらえるような内容の精査および楽曲分析についての説明と演習を、時間をかけて行い、できるだけ学生自身ができるようになることをめざしたい。

4. 受講学生に対する要望

ポピュラー音楽の概要はクラシックを学ぶ学生も一通り学んでおく必要があると思っています。ぜひ主体的に授業に参加してください。

◆ ピアノ応用実践Ⅱ（音1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

マンツーマン指導の科目が多いこともあり、学生一人一人の理解度や課題を把握し、個々の状況に沿ったきめ細やかな指導を心掛けました。また、問題の解き方や考え方のコツなども伝えることにより、学修内容についての理解を深めることができたようです。

2. 授業評価の結果に対するコメント

グレード取得など明確な目標に向けての学修や、学修全般を通して都度希望する内容の学修など、学生個々に学修内容は異なりますが、自己の取組に対する評価では、どの項目も満点の評価がされており、受講者全員の努力と真摯な取り組みが非常に感じられ嬉しく思います。授業の取組に対する評価では、授業時間や説明で少し低い評価になっていました。授業時間については、時々、授業の流れによってそれぞれの受講者の時間配分に違いがあったことや、説明については、繰り返し問題を解き理解が深まり定着していくとともに説明が少なくなっていたかもしれませんので、見直していきたいと思います。

3. 今後の授業における目標

今回低い評価であった授業時間については、受講者の時間配分が平等になるように授業の組み立てや指導方法を改善していきたいと思います。説明については、毎回の丁寧な解説を心掛け、学生がより理論的に音楽を理解できるよう努めたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

多くの専門的知識を修得し理解を深めることは大変なことです、それらは自分の音楽活動の糧となります。勉学に集中できるこの大学生活に可能な限り多くの知識や技術を修得し、各々の音楽に活かしていきましょう。

◆ アンサンブル（音1・2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生との意見交換の場を積極的にもち、学生が何を望んでいるかになるべく耳を傾け、その都度改善に努めた。授業が有意義かつ楽しい時間になるよう、それぞれの進度に合わせた指導を心掛けた。

発表の場を積極的に設け、発表に向けて学生も一生懸命向き合った。聴き手からもありがたい声をたくさんいただけたのは、学生たちの更なる活力に繋がった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

私自身が授業方法を模索しながらではあったが、学生たちの主体性のお陰で有意義な時間になったことに感謝。一人ひとりが、徐々に演奏者としての自覚をもって本番に臨めるようになってきたと実感できたことが、何よりありがたい。

3. 今後の授業における目標

履修生の担当楽器により活躍の機会に差が出てしまうことは否めないもので、なるべく皆が活躍できる場を設けることが目標。音楽に真摯に向き合い努力しながら、音楽の楽しさは持ち続けられるよう、指導を心掛けたい。

4. 受講学生に対する要望

吹奏楽・アンサンブルは依頼演奏等、発表の場が多くなる可能性もあり、大変だと思います。しかし、一つ一つの本番に丁寧に向き合い、チームワークを大切により良い音楽を届けられるよう頑張りましょう。吹奏楽やアンサンブルは、授業で合わせる前の個人の練習も大切です。一人一人が大切な役割を担うので、責任をもって自分の楽譜と向き合ってください。分からないことは気軽に尋ねてください。2年間の努力と経験は、今後の人生の一生の糧となります。積極的に、いろんなことに挑戦し、有意義な学生生活を過ごしましょう。

◆ リペア応用 I B（音 2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

毎年2年次後期には学生の技術力の差が顕著に現れるので、個々の技術力や理解度に合わせた指導を心がけました。今回の評価では「自分の苦手な所に向き合うことができた」「自分の課題をみつめることができた」とのコメントがあり、良い結果になったと実感しました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

リペアに関する科目はどれも概ね高評価だったが、時間外学修の評価が毎回低い傾向があります。しかし、授業後や土日でも作業に励む学生の姿は見かけますし、学生からの質問対応や、完成品の採点をする機会も多く、時間外学修は十分にできていると感じます。

3. 今後の授業における目標

次の授業までに取り組む課題を提示したり、個別に技術指導を行ったりするなど、時間外学修への取り組みを積極的にサポートしていく。また、学生の取り組みをしっかりと評価し、自己肯定感を高める必要がある。

4. 受講学生に対する要望

リペアの授業は長時間の作業が続きます。集中して取り組めるよう、毎日しっかり睡眠をとってください。また、授業時間外でも技術評価や指導などの対応はしていますので、気軽に声をかけてください。

【歯科衛生学科】

◆ 診療補助応用 III（歯 2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生が見やすい資料（PowerPoint）作成し、復習や期末試験の勉強がしやすいような工夫をした。学習効果を判定するために小テストを数回実施した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自分の血液型の評価など、自分の健康状態等を確認する検査を事業に取り入れることで、学生の意欲が高まったように思う。

3. 今後の授業における目標

実習項目とさらに増やし、学生のモチベーションが高まるよう工夫する。

4. 受講学生に対する要望

検査の意義等を十分理解理解するため、教科書等による復習を実施してほしい。

◆ 口腔解剖学Ⅱ（歯１）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

可能な限り動画や3Dソフトを用いて理解しやすい工夫をするようにした。解剖系の授業は3次元的に理解する必要があるため、一定の効果はあったと考える。

2. 授業評価の結果に対するコメント

歯型彫刻という歯科業界独特の実習を取り入れているが、将来的に診療でワックスアップなどをするわけでもない学生たちにこの実習をさせる意味について例年疑問に思うことがあるが、何故か学生の評判は例年悪くない上に、卒業生も歯型彫刻は楽しかった、と答える人が多い。そういったこともあり、今年度も歯型彫刻を行ったが、やはり例年通り好意的な評価であった。

3. 今後の授業における目標

この授業は歯の解剖だけでなく組織学や発生学も含まれるため、少ないコマ数でできるだけわかりやすい授業を展開していきたいのだが、なかなか難しい。歯の発生はわかりやすい動画、3Dソフトなどを検討したい。

4. 受講学生に対する要望

口腔衛生のスペシャリストを目指す皆さんは、当たり前ですが歯の正常解剖を理解しておかなければなりません。正常解剖は目で見えるレベルから顕微鏡レベルまでありますから、事前に教科書を積極的に読んで、しっかり予習をしてください。

◆ 小児歯科学、歯科放射線学（歯１）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

わかりやすい講義を心がけ、それなりにできていると思う。

2. 授業評価の結果に対するコメント

講義の間に、リフレッシュの意味で5分くらいの休憩をとって、あまり意味がないと思っていたが、アンケートでは少人数でもありがたいとの意見を知り、来年度も続けたい。

3. 今後の授業における目標

わかりやすく楽しい授業を心がけて、ある程度は浸透しているとは思いますが、国家試験があるので、学生の学力向上につなげられるかが課題。1年の講義内容を3年で覚えてもらえるような、有意義で印象深くかつ知識につながる講義をすることを目標にしたい。

4. 受講学生に対する要望

教育の理想の姿は卒啄。学生の意志があるところに、教員の存在価値がある。成長したいという意志をもって、一生に一度の学生生活を送ってほしい。

◆ 診療補助応用Ⅳ（歯２）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業評価全般は、良かった結果だと思う。しかし、コメントに進行するスピードが速いともあるので、今後も改善は必要と考える。この実習は、臨床実習に行く前の復習も踏まえて、臨床向けの内容にしてあるため、1年生で学んだ臨床歯科学のことが、より実践的に理解してもらえるように計画を立てているが、もう少し、1つの内容に時間の余裕を持てるように時間配分を今後も考える必要があると感じた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

実習項目が多いため、実習を始める前にもう少し説明と復習の時間を取ってから実習することで、実習が今以上にスムーズにいくと考える。また、個々に対して教員が時間を取って指導しながら理解してもらおうようにしていきたい。

3. 今後の授業における目標

どうしても、決められた時間に実習を終えるため、途中で、実習時間が無くなることもあるので、余裕を持った時間配分で、実習が出来るように改善していきたい。学生自身が実習内容を理解して実施できるために、復習の時間を取っているが、もう少し今以上に時間を取るようになっていきたい。

4. 受講学生に対する要望

この実習は、1年生で学んだ専門教科を実際に実習していくものです。自ら事前に実習項目を確認して復習していく実習です。そのためにも事前に出す課題レポートは、教科書で調べて復習し、理解して、実習に望んで欲しいです。

◆ 歯周病予防技術法Ⅱ（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生が自ら練習できるよう促し、技術を磨いてもらうように声をかけた。放課後や空きコマに練習をしていた。そのため、実技試験の合格に繋がったと思う。

2. 授業評価の結果に対するコメント

回答率が 88.5%で全員でなかったのが残念である。授業中に授業評価を行ったが欠席者がいたため、欠席者にも促したつもりだがもっとしっかりと声をかけるべきであった。自己都合で休講にしまったが、学生は実技試験に向けて真摯に取り組んで全員合格できた。「自己の取組に対する評価」の「意欲」の結果も高得点でもあるが、全体的に意欲的に参加してくれていてうれしく思う。

3. 今後の授業における目標

学生全員の理解度は違うため、一人一人の学生をしっかりと確認し、技術や知識が修得できるように全体を把握し、授業を進めていきたい。

4. 受講学生に対する要望

分からない時は遠慮なく聞いてほしい。休むとついていくのが大変になるので、休まないように体調管理に努めてほしい。

◆ う蝕予防処置法Ⅰ（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

以前はプリント穴埋め時に学生のスピードに合わせるため、資料を PDF 化し投影しながら直接書きこむようにしていたが、後方座席からは見えにくい、急いで書いた字が読みにくいなどの意見があったため、テキストを入力して対応するよう改善したところ、同様の意見は出なかったところをみると効果があったと思われる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

概ね良い評価をいただいているので今後も続けていきたい。

3. 今後の授業における目標

歯科衛生学科は3年次に国家試験があるが、1, 2年次のことをどれだけ頭の片隅に記憶で来ているか3年次の国家試験勉強が変わると感じている為、なるべく想起できるような授業内容、展開を考えていきたい。

4. 受講学生に対する要望

国家試験勉強中に「もっと前からやっておけばよかった」、「1, 2年生の授業のときにもっと真剣にやっていたらよかった」と口にする3年生が多い。設問4でも書いたように1, 2年次の内容はとても大切。あとで後悔することの無いようにして欲しい。そのためには、授業中に集中して聞くこと、覚えて理解することが大切。

◆ 保健指導法Ⅰ（歯科Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価から、より学生の理解が深まるよう、授業内で使用するスライドや配布プリントを工夫する。また、歯科衛生士としての役割や目標を感じ取ってもらえるような授業にできるよう工夫した。その結果、授業の取組に対する評価ですべての点においてよい評価を得られることができた。受講してよかった点では、「わかりやすく楽しく参加することができた、丁寧な説明でよく理解できた、今後の授業に活かしたい」などの感想を得ることができた。毎年この授業を担当しているが、昨年と同様に「前期の授業からのつながり」や「歯科衛生士の役割」などを学生に感じ取ってもらえたのではないかな。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生の理解度に合わせて授業を進めた。毎回新しい知識や技術を学ぶため、授業の始めに前回の振り返りをするなどして学生の理解度を深めた。相互実習では、一人ひとりの様子を確認しながら必要なアドバイスをを行った。

3. 今後の授業における目標

保健指導を理解するためには経験をすることが大切である。この授業で、2年生後期から始まる臨床・臨地実習に向けて保健指導に必要な知識や技術を身につけてもらえるようにする。

4. 受講学生に対する要望

学生の皆さんの反応を見ながら、授業の進度を考えています。わからないことなどがあれば積極的に発言してください。

◆ 口腔解剖学Ⅱ（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

例年、印象採得～石膏注入は一連の流れで実習をしていたが、今年度は、印象採得～咬合採得～石膏注入～技巧指示書作成という実際に臨床で行う流れで実習を行った。その他の印象材についても状況を設定したことにより、将来歯科衛生士になり診療補助を行う姿を想像できたのではないかな。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価でマナーの部分が強く、授業内でも身だしなみ・時間、期限を守ることが繰り返して指導した結果ではないかと考える。厳しいとの声もあるが、今後も時代に合わせて指導していきたい。また、知識技能修得については、歯科衛生士として業務を行うにあたり重要になってくる技能に関して授業内で繰り返し復習を行ったことが3.9という結果につながったのではないかと考える。

3. 今後の授業における目標

実習科目は技能優先と考えるため。実習時間については一人当たりの時間が多くなるように時間を確保したい。デモ動画などを作成し技能の確認を自宅などで復習できるよう、ICTを積極的に活用していきたい。

4. 受講学生に対する要望

身だしなみ、時間・期限を守るなど、臨床（社会）に出るにあたって当然のことです。やるときはやる、休むときは休むメリハリをつけて実習をしましょう。教員の話はしっかり聞きましょう。自分で判断できない時は、必ず教員に確認してください。授業でわからないことがあれば、その場で聞か授業後に質問しに来てください。わからないことをそのままにしないように。

◆ 医療保険（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

「進度レベル」の項目以外は全学および学科の平均点を上回ることができたので、ひきつづき来年度も同じ傾向で授業構成を考えています。

3. 今後の授業における目標

「進度レベル」の項目で全学および学科の平均点を上回ることができるよう、授業毎の学修量を平均化して、すべての評価項目で全学および学科の平均点を上回ることが目標にします。

4. 受講学生に対する要望

体調不良等のやむを得ないものではなく、失格にならないように計算して欠席する学生が数名いるように思われました。将来の仕事に直結する科目なので、積極的に出席してほしいです。

教養科目

◆ 情報活用（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

前期情報科学（教養）の発展・応用の内容として授業を進めてきたが、情報科学で身に付けた力を活かして演習に意欲的に取り組む学生の姿が多くあった。また、数理データサイエンス AI プログラムに基づく内容にも触れながらであったが、真面目に聴講する姿があった。多くの学生が、課題演習や情報セキュリティ理解の学修にも真面目に取り組み、結果として良い授業評価を得られることができた。特に情報セキュリティに関する内容については、最新の社会情勢を踏まえた内容に触れるように心掛けた。

3. 今後の授業における目標

中心となる演習では、一人一人の学修の進み具合を確認しながら、演習課題の内容や資料の準備でさらに工夫改善をし、個に応じた支援を続けていきたい。情報セキュリティに関する内容については、常に最新の情報を踏まえた内容にすることを心掛けていきたい。

4. 受講学生に対する要望

演習課題の進み具合で、よくわからないときやうまく結果が導き出せないときなど、担当教員や周りの仲間に積極的に質問するなどして、授業の時間内に課題解決ができる力を身に付けてほしい。

◆ 子ども学入門（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

オムニバス形式ということもあり、内容がかぶらず体系的な学びができるよう心掛けた結果、学生にとって多様な視点で子どもをとらえることができたということが分かった。

3. 今後の授業における目標

視覚的・体験的な学びは学生にとって効果的であることが分かったので、引き続きそうした学びをできるように講義を構成していく。

4. 受講学生に対する要望

感想にもありましたが、少し私語が気になる場面があります。交流を積極的に行うことはよいですが、周りの学生に迷惑をかけることは許されないと自覚してください。。

◆ 外国語コミュニケーションⅡ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回すべての項目について概ね肯定的な評価を得たため、前期と同様の形式で実施した。ただ、前期との違いは2点あり、1点目は幼児教育学科が前期は36名の多人数授業だったが少人数授業に変わったこと、もう1点は前期と比較してテキストの分量がおよそ倍になったことである。それによって、少人数の方が発言する機会が多くなりよかったという肯定的な結果と、テキストの分量の増加により、授業時間が延長してしまうときがあったという否定的な結果につながった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

前期の外国語コミュニケーションⅠと同様、「授業が楽しかった」「コミュニケーション能力がついた」「少人数で楽しく学べた」という肯定的な評価が多かったが、「授業の終了時間を守ってほしかった」という授業時間に対する評価だけが極端に低かったのが残念だった。

3. 今後の授業における目標

後期のテキストの分量が多い中で、同じように進めようと思っても、それぞれのクラスの学生の状況によってかかる時間も大きく異なってくる。しがたって、来年度は、それぞれのクラスの特徴をできるだけ早期に把握するよう努め、クラスごとに臨機応変に指導し、授業時間に配慮するよう努めたい。

4. 受講学生に対する要望

「楽しく授業を受けることができた」等、私の指導方法について肯定的な評価をしてくれた人が大半だったことをとても嬉しく思います。しかし、楽しい授業は、私の指導だけではなく、授業に臨む皆さんの前向きな姿勢によって作り上げられたのだと、感謝の気持ちで一杯です。今後も、どの授業に対しても、その前向きな姿勢を大切に、先生と一緒に楽しい授業を作り上げてください。

◆ 子ども学入門（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価では、全体的に高い評価をいただき嬉しく思います。特に「工夫」「説明」の項目で高い評価をいただいたことから、授業の内容や進め方が学生にとって分かりやすく、興味を持ちやすいものであったと考えられます。また、自由記述の中でも「実体験を交えた説明が分かりやすかった」「子どもとの接し方について学ぶことができた」との声が多く、講義が受講生の実生活や将来に役立つものであったことが確認できました。一方で、授業環境や私語に関する指摘が一部見られたため、集中しやすい環境づくりに対するさらなる配慮が必要だと感じました。

3. 今後の授業における目標

今後の授業では、より主体的な学びが促されるよう工夫をしたいと考えています。今回の評価から、学生が「自分ごと」として考えられる内容や体験が特に印象に残りやすいことが分かりました。そのため、ディスカッションやグループワークの機会を増やし、学生同士の意見交換を活発にすることで、より深い学びへとつなげていきたいです。また、私語に関する指摘もあったため、授業の進め方を工夫し、集中しやすい環境づくりを意識することも課題としたいです。

4. 受講学生に対する要望

今回の授業を通して、皆さんが子どもとの関わり方や成長について新たな視点を持つことができたことを嬉しく思います。今後も、ぜひ授業で学んだことを日常生活や将来の仕事の場面で活かしてみてください。また、授業中の私語についての指摘もありましたが、より良い学びの環境を作るために、一人一人が意識を持って授業に参加してくれると嬉しいです。皆さんが今後、どのような道を歩むに

しても、子どもと関わる機会はあると思います。そのときに、この授業で得た知識が少しでも役立つことを願っています。

◆ スポーツ演習Ⅱ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価及び授業の取組に対する評価ともに全学平均、学科平均を上回る評価であった。スポーツやレクリエーションを通して、仲間と活動する楽しさや大切さ、心身の健康の維持向上を実感し、健康への意識、健康の大切さ、健康づくりの方法を伝えられたと考える。

3. 今後の授業における目標

スポーツが勝利至上主義ではなく、生涯にわたる心身の健康のための要素として大切にすることを伝える授業を今後も目指す。既存のスポーツやレクリエーションなどを組合せ、体を動かす楽しさ、仲間と励まし合う安心感などを実感できるよう、学生の思いを大切にしながら授業を工夫していきたい。

4. 受講学生に対する要望

大学生になると体を動かす機会が減ってしまいます。授業で実感した体動かす楽しさや心地よさを忘れず、今後も継続的に運動に取り組んでください。生涯にわたって健康的な生活となることを願っています。

◆ 心理学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

該当なし

2. 授業評価の結果に対するコメント

毎回の課題であるが、授業環境の整備、具体的には私語や他事をする学生への対応が評価の結果に反映されている。教員の努力を評価する声もあるが、全ての学生にとって快適な授業環境を提供できるよう、引き続き工夫を重ねる。教養科目の大人数の授業であるため学生の取り組み姿勢にも個人差があるが、興味深い内容と学生が取り組みたくなるような方法を考え、改善を進めていく。

3. 今後の授業における目標

毎回の授業時、自分が教えたい内容や学生に取り組んで欲しいことを中心に授業を組み立てた後に、学生側からの視点で改めて授業内容全体を見直してみる。90分の授業を受ける上での集中力の持続や情報処理能力、心理的安全性などの観点で見直すことで、学生にとって興味深い内容でストレスの少ない授業を行えるよう考慮する。

4. 受講学生に対する要望

この授業で扱っているのは、日常生活での人との関わりや自己理解・他者理解に役立つ内容です。勉強、という枠組みから離れ、新しいことを知る楽しさを知って欲しいです。あまり興味がないと思えるようなテーマでも「自分には関係ない」と決めつけず、目を向けてみてください。

本学の教職員は これからも
学生の皆さんの学びをさらに深めるために
よりより授業づくりへの努力を続けます

学生のみなさん、授業評価に御協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生のみなさんがいてこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取組と率直な声、それに応える形での教員の授業改善という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。
